

令和7年度 学校評価の結果（考察）について 令和8年2月20日

12月に実施しました学校評価アンケート（保護者・児童・教職員）の結果です。考察したことをまとめましたのでご覧ください。

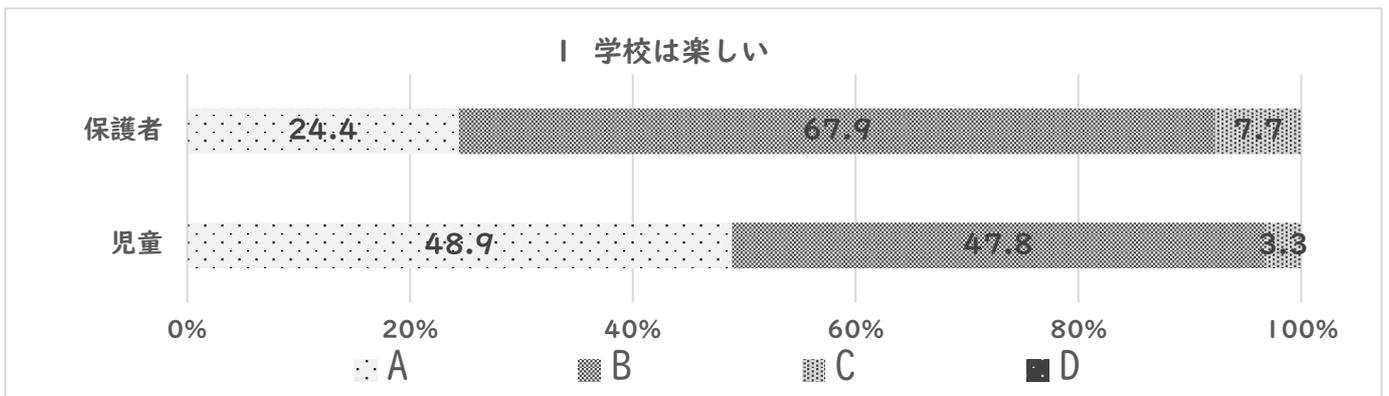
結果は、保護者と児童の比較を中心にグラフで表しています。項目に合わせて、教職員も含めて比較をしています。

- 1) 回答者（人数）：保護者（78名） 児童（90名） 教職員（17名）
- 2) 質問項目 グラフの上記に記載
- 3) 評価（4段階評価：「A」「B」「C」「D」）
 - ・積極的/肯定的な評価＝「A」 そう思う・あてはまる
「B」 だいたいそう思う・だいたいあてはまる
 - ・消極的/否定的な評価＝「C」 あまりそう思わない・あまりあてはまらない
「D」 そう思わない・あてはまらない

① 「学校は楽しい」

保護者「お子様は、楽しく学校に行っている」

児童「学校は楽しい」



「学校は楽しい」は、児童、保護者ともに肯定的評価（「A」＋「B」）が今年度も90%以上と高いですが、昨年度に比べると、保護者、児童ともに「A」から「B」評価へ10Pt.程度移行しています。

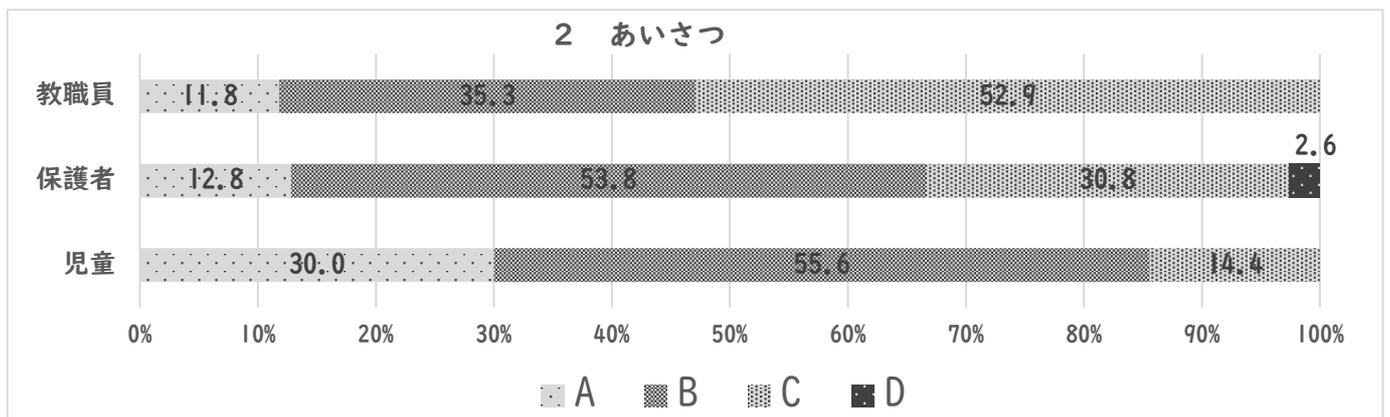
全体的に保護者はお子様楽しく学校に通っていると感じ、児童も学校生活を楽しいと感じている児童が多くいます。その要因として、学校・学級のよい雰囲気が広がり、良好な人間関係が築かれて、友だちと一緒に学習や遊びができるなど友だちの存在が大きいと思われます。児童会では、楽しい城東小にしようと、児童会行事や児童朝会等で、異学年との交流を通した活動に取り組んでいます。引き続き、学校が楽しいと思って通える城東小学校にしていくために、学校や学級の雰囲気づくりを大切にしていきます。

② 「あいさつ」

教職員「児童は、自分からあいさつしている」

保護者「お子様はあいさつをしている」

児童「自分から友達や先生、地域の人たちにあいさつができています」



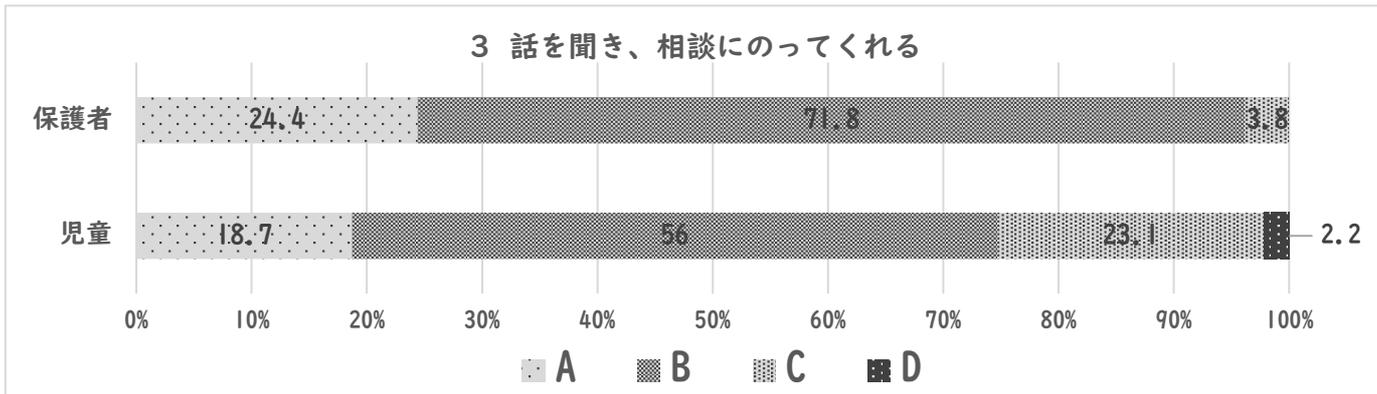
「あいさつ」は、児童の肯定的評価（「A」 + 「B」）が 85.6%で、昨年度より-5Pt.となり「A」評価が若干下がり、「C」評価が +3.6Pt.でした。あいさつができていないと思っている児童が増えています。保護者は昨年度と比較して肯定的評価（「A」 + 「B」）が-11.6Pt.で、その分が消極的評価（「C」 + 「D」）へと移行しています。保護者でもお子様があいさつしていない、できていないと感じている方が増えてきています。

教職員の評価は、二分されており、あいさつをする児童とそうでない児童の二極化が見られます。昨年度は、「A」評価はなかったですが、今年度は 11.8%で、少しずつあいさつができる児童が増えてきているように感じています。あいさつは、学校生活において様々な場面（登下校時・授業始終・給食時・感謝・来客者へなど）で交わすことがあるので、その場面でのあいさつの必要性を児童に伝えていきます。そして、教職員は、様々な場面で、評価していくことが児童のあいさつへの価値を高めることにつながるため、「評価」も大切にしていきます。

③ 「話を聞き、相談にのってくれる」

保護者「学校は保護者の話を聞き、相談に乗ってくれる。」

児童「何かあったときに先生にたずねたり、相談したりできる。」



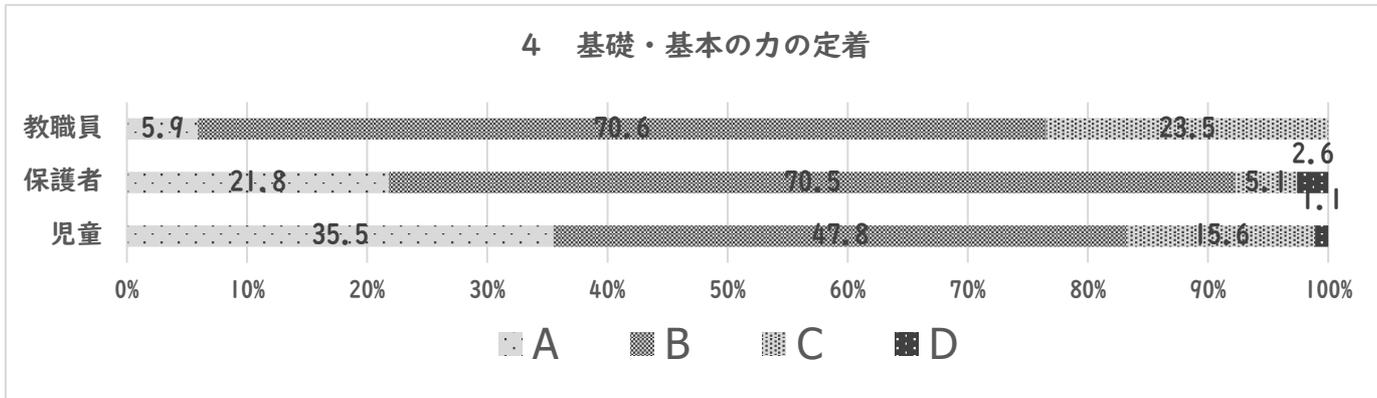
「話を聞き、相談にのってくれる」では、保護者の肯定的評価（「A」 + 「B」）が昨年度と同程度の 96.2%でした。児童の肯定的評価（「A」 + 「B」）は、昨年度より-4Pt.の 74.7%でした。減少分が消極的評価へと移行しました。保護者や児童との良好な関係が築かれていることで、気軽に話ができる雰囲気が広がり、丁寧な対応ができていると推察されます。気になるのが児童の消極的評価（「C」 + 「D」）が 25%いることです。学期に 1回は定期的な面談（城東っ子面談）を実施していますが、これまで以上に、教職員が児童一人一人と向き合う時間を増やし、児童の気持ちにより添った対応を心掛けていきます。

④ 「基礎学力の定着」

教職員「児童は、基礎・基本の力がついている。」

保護者「お子様は、読み・書き・計算など基礎・基本の力がついてきている。」

児童「読み・書き・計算の力が付いてきている。」



「基礎学力の定着」は、保護者の肯定的評価（「A」 + 「B」）が 92.3%で昨年度より若干減少していますが、全体的には、お子様に基礎学力が身に付いてきていると感じています。

児童の肯定的評価（「A」 + 「B」）が 83.3%で、基礎学力（読み・書き・計算）が身に付いてきていると感じている児童が多くいます。しかし、消極的評価（「C」 + 「D」）が 26.7%と昨年度に比べて+17Pt.となり、学習の理解が不十分で、計算力・読解力が身に付いていないと感じている児童が増えています。

教職員の肯定的評価（「A」＋「B」）は昨年度と同じ 76.5%で、児童の基礎学力の定着が進んでいるように感じています。一方で、基礎学力の定着に至らない児童がいると「C」評価（23.5%）で回答している教職員がいます。本校の様子として、基本的な計算力より漢字の書き取りの定着が全体的に低いように感じています。

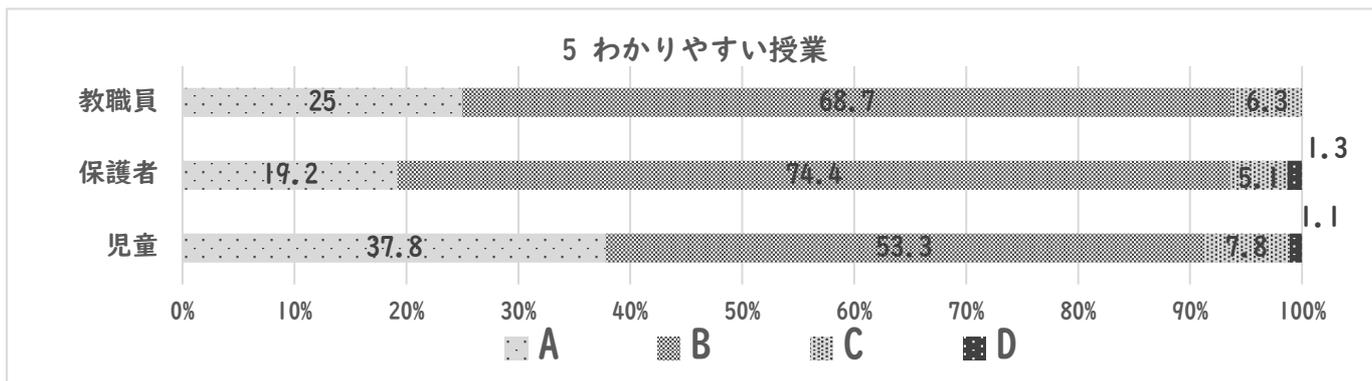
基礎・基本の力は授業だけで確実に定着させるのは難しいので、日々の積み重ね、反復練習、宿題等の取り組みが大切になります。宿題の工夫（前学年の内容にも取り組ませる等）、スキル、隙間時間を活用して継続できる取り組みをしていき、学校と家庭が情報共有しながら協力して家庭学習に取り組めるように、家庭への理解を求めています。

⑤ 「わかりやすい授業」

教職員「わかりやすい授業づくりを行っている」

保護者「学校は、わかりやすい授業に努めている」

児童「授業はわかりやすい」



「わかりやすい授業」では、児童の肯定的評価（「A」＋「B」）は91.4%と昨年度より若干下がりましたが、引き続き概ね良好です。また、保護者は93.2%で昨年度より若干高くなりました。

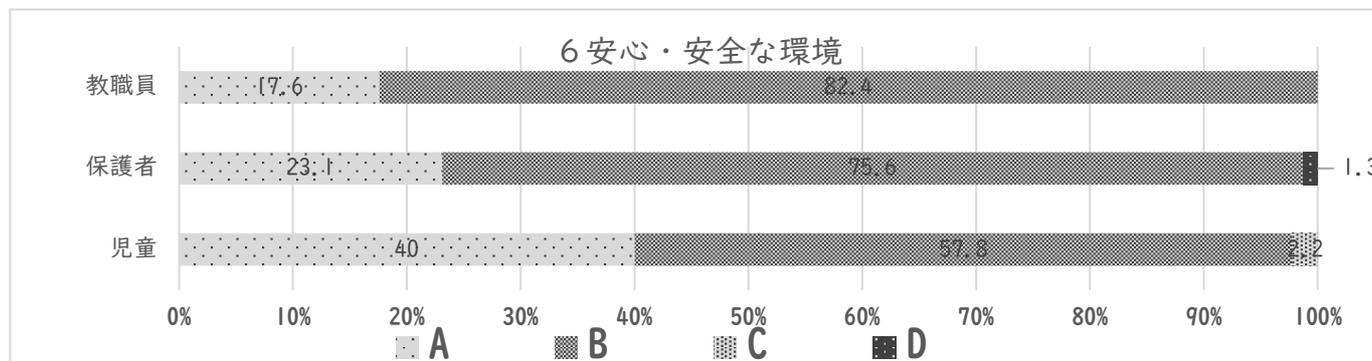
教職員の肯定的評価（「A」＋「B」）は93.7%でした。昨年度から2年間、市教委の研究指定を受けて算数科の授業づくりの研究を進めています。ICT等を活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を進めてきました。研究を通して、教職員一人一人の授業改善への意識が高まり、対話や協働的な学びの場面を取り入れた実践、授業づくりができてきています。他教科でも算数科の取り組みから学んだことを活かしながら、引き続き、わかりやすい授業づくりを進めていきます。

⑥ 「安心・安全な学校」

教職員「安全についての取り組みを行い、環境整備に努めている。」

保護者「学校は、安全・安心な環境が整っている。」

児童「安全や健康に気をつけて学校生活が送れている。」



「安心・安全な学校」は、児童の肯定的評価（「A」＋「B」）が97.8%と非常に高く、児童は安全で健康に学校生活を送っています。保護者も、安心・安全な校内環境が整っていることを昨年度より高く評価されています。

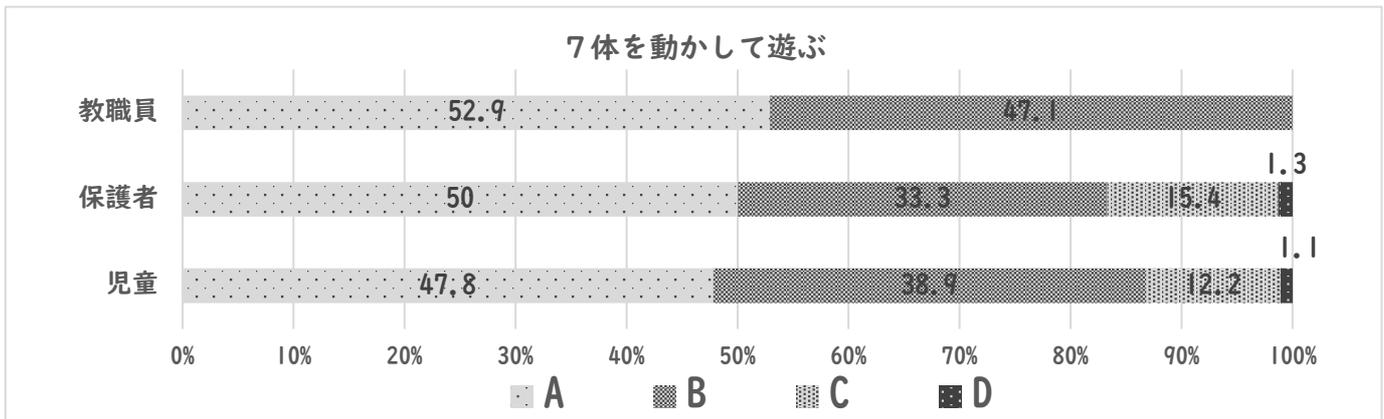
本校では、安全管理として毎月1回の安全点検を行っています。また、避難訓練（年3回・火災、地震）、引き渡し訓練（6月）シミュレーション研修（夏季休業）を実施し、教職員の安全意識を高める取り組みを進めています。今年度も学校管理下での事故・ケガ等は発生していませんが、大きな事故やケガはいつ発生するかわかりません。ヒヤリ、ハットの事案もあるので、安全指導を全体指導（朝会や終会）、学級指導で進め、児童の安全意識の向上、危険予測能力や危機回避能力が高められるように継続して取り組んでいきます。

⑦ 「体を動かして遊ぶ」

教職員「児童は、元気に体を動かして遊んでいる。」

保護者「お子様は、体を動かし元気に遊んでいる。」

児童「元気に体を動かして遊んでいる。」



「体を動かして遊ぶ」は、今年度も3者全てで、肯定的な評価（「A」＋「B」）が非常に高くなっています。多くの児童は、季節関係なく休み時間（業間・昼休み）には、運動場や体育館（雨天時）で体を動かして遊んでいます。異学年で一緒に遊んだり教職員とも一緒に遊んだりして楽しく休み時間を過ごしています。体育専科の指導により、体育の授業が好きな児童が多く、その影響もあるように感じます。

高学年になると児童会や委員会の活動や課題等の提出で、室内で過ごす児童が増えてくる傾向が見られます。そこで、委員会が全校生で運動・遊ぶ機会を催すこともしています。また、11月末～12月上旬にかけて全校生でマラソン練習（6分間）に取り組み、体育授業以外にも体を動かす機会を設けて、体力向上につなげることができています。

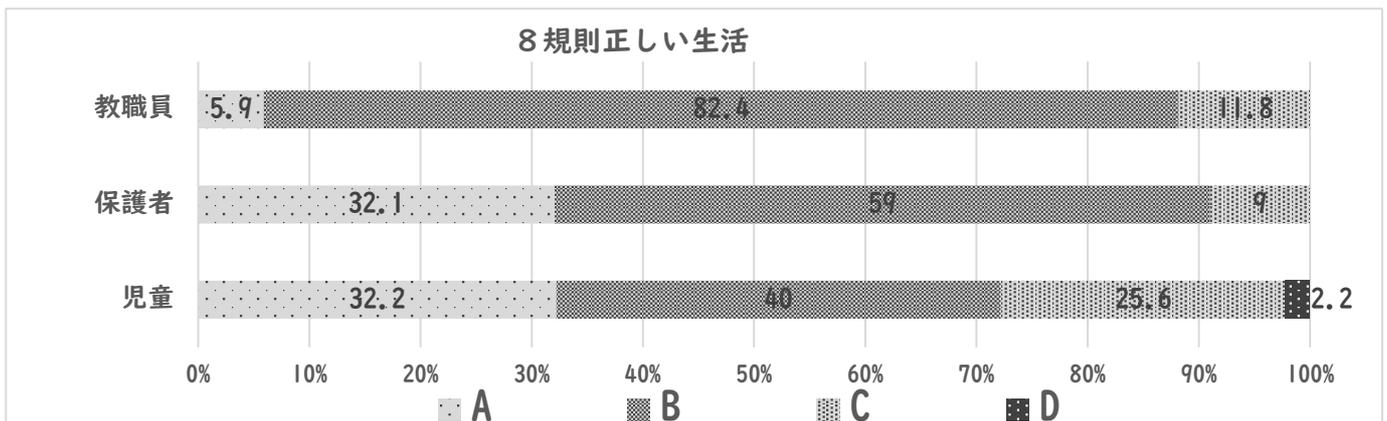
下校後は、友だちと遊ぶ機会が少なく、休み時間は友だちと体を動かして遊ぶ大変貴重な機会となっているので、休み時間の確保を大切にしていきます。

⑧ 「規則正しい生活」

教職員「児童は、早寝・早起き・朝ごはんの定着が図られている」

保護者「お子様は、規則正しい生活が送れている」

児童「早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活が送られている」



「規則正しい生活」は、児童の肯定的評価（「A」＋「B」）は72.2%で昨年度より+6Pt.で、「C」評価が27.8%と高くなりました。生活リズムが崩れてきている児童が増えてきています。保護者の評価については昨年度と同程度でした。

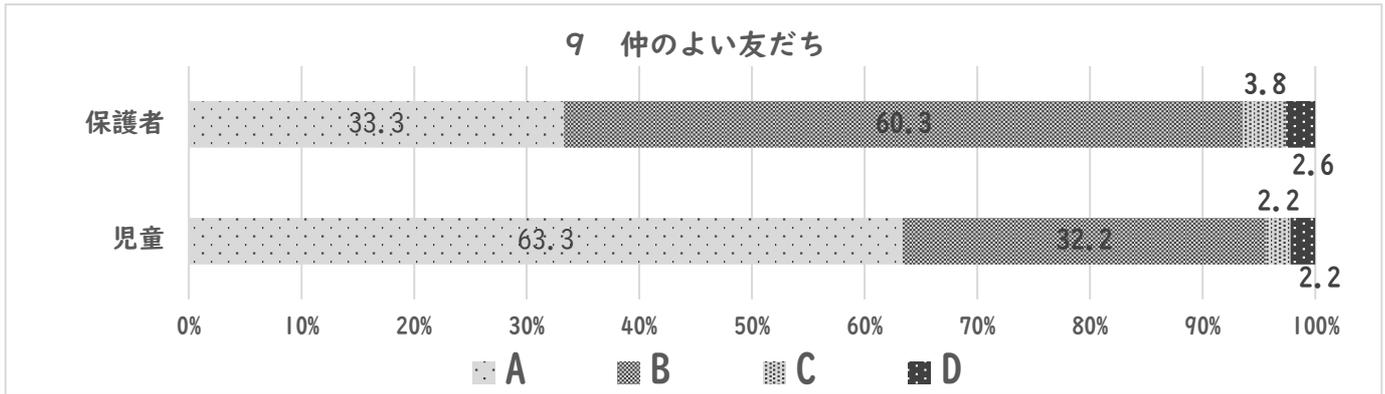
教職員の評価では、規則正しい生活が定着している児童が多くいると捉えています。が、「朝食を食べないで登校している」「早寝はゲームをしてできていない」と児童や保護者から聞くことがあります。原因を聞くと「夜遅くまでゲームをして、起きるのも遅くなり朝食を食べない」「早朝のゲームイベントに参加して寝不足で登校している」などです。

家庭事情も様々なので改善が難しい面もありますが、保護者の方には、家庭におけるメディアとの付き合い方や「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発等を行っていただき、学校においても生活習慣の大切さについて、学級指導や全体指導で指導していきます。

⑨ 「仲のよい友だち」

保護者「お子様は、学校に仲のよい友だちがいる」

児童「遊んだり話をしたりする、仲のよい友だちが学校にいる」



「仲のよい友だち」は、児童の肯定的評価（「A」＋「B」）が95.5%で昨年度より+13Pt.でした。また、保護者の94%程がお子様と仲のよい友だちがいると昨年度と同程度の回答がされています。

本校の児童は、同学年だけでなく異学年の友だちと仲良く話したり、遊んだりしていることから友だち関係が良好に築かれているように感じます。友だちに対して、優しく接する姿が学校生活や行事等でたくさん見られます。また、高学年が低学年に寄り添う姿、教室でも助け合う場面がたくさん見られます。

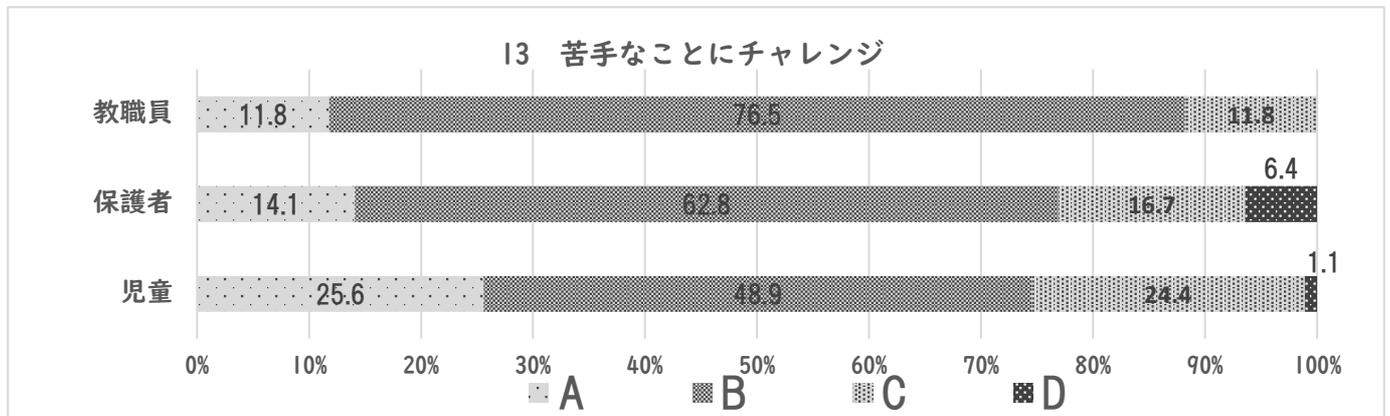
友だちとの良好な関係が築かれているからこそ言葉遣いが気になることがあります。言葉遣いや些細なことを契機に関係性が崩れることがあり、様々な問題へと発展していく可能性もあるので、教職員は普段から児童の様子をよく観察し、小さな変化に気づけるように意識して児童に接していきます。

⑩ 「苦手なことにチャレンジ」

教職員「児童は、苦手なことにチャレンジしている」

保護者「お子様は、苦手なことにチャレンジしようとしている」

児童「苦手なことにもチャレンジしていますか」



「苦手なことにチャレンジ」は、児童の肯定的評価（「A」＋「B」）は、74.5%で昨年度と同程度でした。「C」評価の25.5%の児童は、苦手なことにチャレンジすることに消極的になっています。保護者の肯定的評価（「A」＋「B」）は、76.9%で、お子様のチャレンジを認めています。教職員の肯定的評価（「A」＋「B」）は、90.3%で昨年度より高くなり、「A」評価が増えました。

いろいろなことに一所懸命に取り組み、努力して改善しようとする姿勢が身に付いている児童がいる一方で、苦手なことに対して、やる前からあきらめている児童も見られるのが残念なところです。日頃から、苦手なことに向き合うことの大切さや、結果だけではなく過程を認めて価値付けをする声掛けを意識して、挑戦すること・諦めないことについて背中を押していきます。また、失敗や躓きを恐れず、どんどん前向きに挑戦して行ってほしいです。そのためにもチャレンジする児童を応援する雰囲気を作りたいです。